

## 第3章 目指す将来像

本市は県北西部の商業中心都市として発展し、また、都心近郊のベッドタウンとして開発が行われ、人口の増加とともに公共施設や行政サービス等の整備・拡充を進めてきました。

しかし、今後は、人口の伸びが鈍化し、少子高齢化がより顕著になり、大幅な経済成長は見込めないと予測される中、これらの課題に対し何を行うべきかを十分に検討し、本市の魅力や強みを活かしながら都市の活力と生活の質を高めつつ、将来にわたって持続可能なまちづくりを市民・事業者・教育機関・行政等が一体となって進める必要があります。

そのため、みんなで共有できるよう、柏のまちづくりの概念やイメージを目指すべき将来の都市像として設定します。

### 1 将来都市像

概ね今後10年を展望した本市の将来の姿を次のように設定し、目指す将来像とします。

## 未来へつづく先進住環境都市・柏 ～笑顔と元気が輪となり広がる交流拠点～

### 2 設定にあたっての基本的な考え方

#### 地域資源が活かされ、人が住まい、集うまちとなること

本市の将来の姿を考える出発点として、子どもたちが固有の歴史文化や風土、良好な教育環境の中で、未来の様々な分野の担い手に育ったり、心を癒し潤す恵まれた自然の豊かさ等がまちづくりに活かされたりしていることで、個々人の誇りや地域への愛着が高まり、長く住み続け、集いたくなるまちとなることが本市の理想の姿だと考えました。

### 3 設定の視点

2の将来都市像の設定にあたっての基本的な考え方や、本市の現状及び課題を踏まえ、主に次のような視点に留意して将来都市像を設定しました。

#### (1) 先進的なまちをつくる

本市は、ベッドタウンとして成長し、交通の利便性や中心市街地の活力等が相まって市外からも人が集まり、まち全体の活気をつくり出してきました。しかし、将来の課題を踏まえると、これまでのまちのあり方だけでは、まちの活気が失われていく懸念があります。

そのためにも、子どもを安心して産み育てられる環境づくり、本市の強みや魅力をより引き出す取組、快適で利便性の高い交通環境や安心して過ごせる地域をつくること等、本市のこれまで培われてきた強みや特徴をさらに磨き上げ、多くの人を集い、そして暮らしやすい、一歩先を行くまちとなる必要があります。

### (2) 持続可能なまちをつくる

計画期間の10年だけではなく、将来にわたって持続可能なまちを目指すには、未来を見据えた上で今後10年のあり方を考え、まちづくりに取り組む必要があります。持続可能なまちとなるためには、将来の市民に受け継いでいくために行わなければならない視点として、未来を担う子どもを大切に育てることや、いつまでも健康でいきいきと活躍できる環境、安定して暮らすことができる環境、地域のつながりをつくること等が重要となり、美しい自然環境を未来に残すことや大きな災害への備え、将来に負担を残さない行財政運営等も求められます。

これら(1)・(2)の点を「未来へつづく先進住環境都市」と表現しました。

### (3) 地域課題を克服した暮らしやすいまちをつくる

今後乗り越えていかねばならない重点課題を克服するためには、地域力を高め、これを全市的に波及させていく必要があります。この点を「笑顔と元気が輪となり広がる」と表現しました。

また、全国的な人口減少の中では、定住人口だけでなく、交流人口も増やし、首都圏での重要な結節点として市の吸引力を向上させる視点も必要となります。

これらの点を「交流拠点」と表現しました。また、このように定住人口と交流人口の両面を増やすことができることは、本市ならではの強みであり、「先進住環境都市」の「先進性」を示す特徴の一つになります。